

特集

★クラブ間交流を行っているクラブ★

一般社団法人せき西部ふれあいSC 岐阜県関市

総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)がその地域に適合し定着・浸透するためには、総合型クラブ単体の取り組みだけでなく、すでに近隣で活動している他団体と相互扶助の関係を築くことが必要となります。

そこで今回は、総合型クラブ間で交流を行っているクラブについて紹介します。

1

クラブ概要

約300名の会員が自分に合った活動で地域の交流を深める

一般社団法人せき西部ふれあいSCは、岐阜県関市を中心に活動している総合型クラブです。当クラブは、平成24(2012)年2月に設立し、平成31(2019)年には法人格を取得して一般社団法人となりました。

設立した当初から、高齢の方の交流の場の提供と、地域の子どもの遊び場の提供をしていくことで、地域の交流を深めようという狙いで活動を続けています。

現在、成人向けの活動で参加者が多い教室は「パワー&ストレッチ」と「体幹トレーニング」という名称の教室です。もともとは両教室とも「健康体操教室」という名称でしたが、参加者に若い人が増えてほしいと願って名称を変更しました。効果はそれなりに、いつも安定したメンバーで活動しています。

また、競技スポーツの指導もしており、小学生主体の陸上競技と小中学生向けのバドミントンのプログラムを展開しています。また、「スポーツはしたほうがいいけど競技スポーツはちょっと…」というお子さんや保護者向けに鉄棒、跳び箱、マット運動、ボール遊びなどを行い、身体を動かすことの楽しさを学べるプログラムも展開しています。

このように約300名の会員が、それぞれの教室で自分に合った活動をしており、それを取りまとめる事務局は7名の運営委員で運営されています。小さなクラブで、常勤で人を雇うことはできないため、全員がパートタイムで運営に携わっています。

2 近隣の総合型クラブと一緒に活動するイベント

参加体験会「アウトドアパーク」から 約1,000人来場の「スポーツマルシェ」に発展

令和2(2020)年11月に、我々の活動を地域の人たちにもっと知ってもらい、クラブを身近に感じてもらうためのイベント「アウトドアパーク」を開催しました。毎週活動している教室を、地域にある公園の芝生の広場に飛び出して行う参加体験会です。公園にはいろいろな人が来るため、イベントを知らない方にも多く参加いただくことができ、盛況のうちに終えることができました。実施準備中に、同じ関市の上之保ほほえみスポーツクラブさんが移動式のボルダリングボードを作製されたとの情報を聞き、ぜひ「アウトドアパーク」に来て出展してほしいと要請したところ、快諾いただきました。

翌年は、県下の他の2クラブ(一般社団法人スポーツリンク白川、特定非営利活動法人 Let'sたるい)にも参加いただいてモルックやノルディックウオークの体験会を行っていただきました。

令和4(2022)年からは、会場を関市の総合運動場に変更し、イベントの名称を「スポーツマルシェ」に改めました。関市内外の6つの総合型クラブと一緒に活動する場となり、小学生から高齢者まで約1,000人が来場するイベントとなりました。

スポーツマルシェ2022参加クラブ(実施内容)

- ・せきスポーツクラブ(玉入れ)
- ・NPO法人キウイスポーツクラブ(ディスクゴルフ)
- ・上之保ほほえみスポーツクラブ(ボルダリング)
- ・中部学院大学スポーツカレッジ(体力測定会、スラックライン)
- ・NPO法人スポーツフラッグG(ミニテニス)
- ・せき西部ふれあいSC(バランスポール、ヨガ、グラウンドゴルフなど)
- ・緑ヶ丘剣道スポーツ少年団(剣道の道着・袴・防具の装着体験)※スポーツ少年団からの出展



移動式ボルダリングボード



陸上競技場の写真判定測定器を用いた
50mタイム測定



芝生の上で剣道の袴と防具をつけて
体験をする子どもたち

総合型クラブ事業強化補助金を主財源とし、 5枚つづりの体験チケットも販売

最初のアウトドアパークおよび名称変更後のスポーツマルシェの財源は、岐阜県総合型地域スポーツクラブ事業強化補助金を主財源としてイベントの骨格づくりを行いました。

また、令和5(2023)年から来場者には5枚つづり500円の体験チケットを購入いただき、自分が体験したいブースでチケットを渡して体験するようにしています。体験に必要なチケットの枚数は出展者が決めることができます。

イベント終了後に、経費などを精算し、チケット枚数に応じた金額を出展者に支払う形をとっています。

6つの総合型クラブが持ち寄ったの看板イベントづくり

近隣と言っても、各クラブとも生い立ちも、活動環境も抱える悩みも違います。そういった状況で、目的を一つにしてイベントを成功することができた理由に、各クラブとも長く活動しながら積極的な会員募集ができておらず、活動が硬直化していたという点があります。なかには、特に強みや看板教室がないクラブもありました。「みんなで看板教室、看板イベントを持ち寄ろう」という呼びかけにより各クラブとも活動が積極的になりました。

令和5(2023)年には地域のクラブが集う2回目のスポーツマルシェを行いました。どのクラブも前年より来場者に喜んでいただける内容と対応ができていたことが印象的でした。令和4(2022)年当時は、ほとんどの総合型クラブが外に出て一般の来場者と接するという経験をしたことがありませんでした。しかし2回目は、他のクラブの良いところをまねしたり、前年の反省を生かしたプログラムを充実させることができていたと感じます。



陸上競技場のトラック部分で行うミニテニスの体験ブース



スラックラインを楽しむ来場者

3

クラブ間交流の効果

多くのクラブが交わることで効果は何倍にもなっていく

各クラブが集まってイベントを成功させるためには、幾度も会議や準備をする必要があります。そういった場を重ねることで、クラブ同士が互いに認め合い信頼する関係になっていくことを感じます。

スポーツマルシェ以外にも、各クラブが単独で行うイベントにお互いに参加するなどの交流は日常となってきています。

イベントの効果として、新規会員が入会したという事例も報告いただいています。また、看板イベントとして事業化していくクラブもあり、活動の活性化に幾分かは寄与できていると感じています。

柔軟な発想と対応によりクラブを運営することで、総合型クラブはさらに魅力的なクラブになっていくと思います。しかし、一つのクラブの力はわずかで、できることには限りがあります。ですが、多くのクラブが交わることで、その効果は何倍にもなっていくと感じています。

4

今後の展望

地域のスポーツ団体と状況を共有し、不安を解決していく活動をめざして

スポーツマルシェを通して他団体との連携の効果というものを体現しました。そうすると次は、どんな団体と連携するとどんな効果がありそうだとか、そのためにはこうしないといけないのかな？ などいろいろな思いをはせ巡らせています。

地域の総合型クラブがまとまった現在、次の連携先はスポーツ少年団と考えています。ほとんどのスポーツ少年団が少子化と子どものスポーツ離れにより存続に不安を抱えています。中学校から移行した部活動の受け皿となる地域クラブも同じでしょうし、近い将来には各競技団体も同様の状況になるのではないのでしょうか。

また、地域のスポーツ団体と状況を共有し、不安を解決していく活動を同時に行うことも大切です。地域のスポーツ推進を進めていくうえで、競技団体の活性化は不可欠です。種目ごとに競技団体と中学生地域クラブ、スポーツ少年団が縦につながり、総合型クラブが各競技団体間を横につなげていくという構図をイメージしています。

ただ現状では、総合型クラブはそのような動きを率先する立場にはありません。まずは、スポーツ協会と連携した活動づくりからスタートしたいと考えています。現在、令和7(2025)年のスポーツマルシェは、関市スポーツ協会と連携する方向で調整を進めています。

スポーツ団体の連携ができ、地域のスポーツ普及力が高まった先には、民間企業との連携により、高齢者の健康・体力の維持と雇用の課題に取り組んでいきたいと考えています。

クラブプロフィール

設立年月日 平成24年2月19日（平成31年2月法人登記）

所在地 岐阜県関市山田32番地

運営 会員数：286名（令和6年8月現在）、予算規模600万円（令和6年度）

特徴

- ①会員の意向を優先した柔軟な対応を心がけています。
- ②自由な発想と活動で笑顔を提供しています。
- ③自分たちにはないものは、ほかから借りる（連携）。
- ④運営陣の高齢化も進んできています。

連絡先 〒501-3944 住所：岐阜県関市山田32番地
HP：<https://www.sekiseibu-fureai-sc.com/>
E-mail：sekiseibu.fureai.sc@gmail.com